



自衛隊栃木地方協力本部

地元出身隊員がラジオで自衛隊を紹介



まず、これまでの仕事内容について質問を受けた来栖2曹は、航空自衛隊で警戒管制員として日本の空を監視していたことや、戦闘機の緊急発進（スクランブル）や災害派遣に関する仕事に携わっていたことを紹介した。斎藤1士は「昨年入隊したての新米です。海上自衛隊徳島航空基地に配属されましたが、現在は出身地の栃木県に出張という形で数か月間勤務し、広報イベントや学校訪問を通じて自衛隊を紹介したり、自衛官について説明して、自衛隊に興味を持ってもらえるよう活動しています」と応じた。

アナウンサーからの「一緒に働く仲間についてどう思いますか」との質問には、来栖2曹は「入隊時や職種の同期、同じ職場で勤務した上司や先輩、先輩が日本各地で勤務していて、国防の任にあたっては、思うだけでも心強く感じます」と話し、斎藤1士は「仲間が困っていたら手伝う、助ける、支える。決して見捨てないのが自衛隊の仲間だと感じます」と、入隊からの経験を振り返りながら答えた。

栃木地本は「今後もラジオ出演等の機会を設け、自衛隊に対する理解促進を図り、地域コミュニティとの連携を強化していく」としている。

自衛隊栃木地方協力本部（本部長 梶1陸佐）は6月27日、宇都宮市のコミュニティFM放送局「ミヤラジ」の番組に出演した。

「ミヤラジ」は宇都宮市の情報を細かく伝える地域放送局であり、防災情報の発信及び災害時における情報の発信も行っている。栃木地本は放送局からの依頼で定期的に出演しており、今回はいずれも栃木県出身の広報・渉外室の来栖2空曹と、募集課に臨時勤務中の斎藤1海士が、アナウンサーからの質問に応じる形で自衛隊について紹介した。



募集相談員と連携して市街地広報を実施



自衛隊栃木地方協力本部（本部長 梶1陸佐）は7月1日、県内7か所の主要駅において市街地広報を実施した。

これは令和5年3月新規高等学校卒業生への求人申込等開始にあわせて、街頭で自衛官採用リーフレット等を配り、採用試験の日程や自衛隊の職種について広く案内することを目的としている。

当日は朝の通勤通学時間帯を中心に、大田原、真岡、小山及び足利の各事務所の所員が担当区域の主要駅に立ち、募集相談員と連携してリーフレットやティッシュのセットを配布した。通行人の中には自衛官の制服に気づいて「かっこいいですね」と言う人や、「あなた自衛官なの？頑張ってるね」と励ましの言葉を掛ける人もいた。市街地広報を支援した募集相談員は「コロナ禍で相談員としての活動が思うようにできないが、少しでも地域に貢献して、自衛隊の魅力を伝えていきたい」と話していた。

栃木地本は「今後も市街地広報等の機会を活用して、自衛官募集について積極的に案内していく」としている。

